

# 西光寺だより

第二四〇号 令和四年 四月一日発行

コロナ禍になり三度目の春を迎えました。

私たちの日常が変わろうとも、今年もまた変わることなく咲いてくれる花々を見ながら、自然の素晴らしさと広大さを感じることであります。

3月15日、毎月15日の親鸞聖人月命日にあわせ、大谷本廟にお墓参りに行きました。お堂から聞こえるお勤めを聞きながら、親鸞聖人9歳の出家の際に詠まれたという歌を思い出したことであります。

「明日ありと思う心の仇桜、夜半に嵐の吹かぬものは」

（今はこれほどに満開の桜も、夜に嵐が吹いたなら、散ってしまうかもしれない。それは私たちの命も同じである。桜のように明日には散るかもしれない命なら確実にあるといえるのは、今この瞬間だけである）

仏教ではあらゆる命は無常と説きます。

無常とは一瞬一瞬が変化して片時も同じ状態がないことをあらわします。

つまり、無常とは花が散るだけではなく、花が咲いていくこともまた無常なのです。

無常だから花は散り、無常だからこそ花は咲く。

命終えていくことだけではなく、生まれてくるということも共に無常の姿といえるのです。

このことに気付くことが、かけがえのない大切な今を生きていくことに繋がると感じたことであります。

親鸞聖人のこの歌を改めて読み返しながらか、今この瞬間こそかけがえのないものと感謝の思いで受けとめたいと思えます。

合掌

## ◆先月の報告◆

①3月26日（土）西光寺太鼓楼にて総代会を行いました。前年度の会計報告、そして今年度の行事報告・役員編成などを協議し、意見交換をいたしました。

役員会・総会は中止といたしますが、役員の皆様にはお逮夜参りの際に資料を配布いたします。

役員変更以外に案件はございません。

役員以外の方で会計報告の資料をご希望の方は、西光寺までご連絡ください。ポストに配布いたします。

そして、旧役員の方々本当にありがとうございました。そして、新役員の方々どうぞよろしくお願いいたします。



②2017年に始まった国宝・飛雲閣と唐門、阿弥陀堂内陣の修復工事が、2022（令和4）年3月31日をもって完了致します。

御本尊の御遷仏法要、御真影の御動座法要、阿弥陀堂内陣修復完成奉告法要及び阿弥陀堂内陣修復完成慶讃法要を修行します。

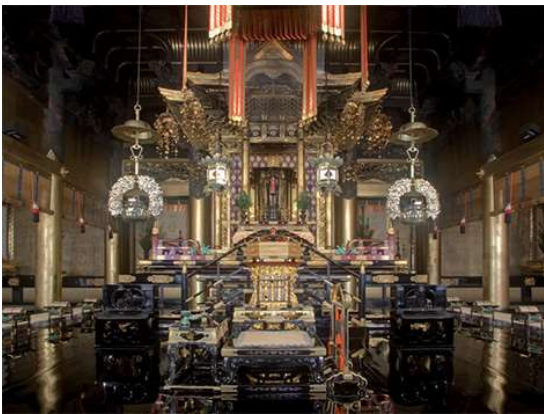
本願寺は、阿弥陀さまがおられる阿弥陀堂と親鸞聖人がおられる御影堂の二つあります。

阿弥陀堂の正面には阿弥陀さまが、御影堂の正面には親鸞聖人のお木造（座像）が置かれ、阿弥陀堂修復の際に阿弥陀堂から御影堂へと阿弥陀さまが移動され、御影堂の正面におられた親鸞聖人を右脇壇へ移され、正面に阿弥陀さまがおられる状態でありました。

それをこの度の阿弥陀堂修復完成により、再び元の位置にお戻しになる（御遷仏）ご法要が四月一日より執り行われます。

さまざまな歴史の上に今があるその本願寺をこころのよりどころとして参拝したいと思えます。

そして、親鸞聖人のみ教えを仰ぎ、お念仏を喜ぶ根本道場としてこれからも大切にみ教えをきき、お念仏の輪を広げいききたいと思えます。



#### ◆四・五月の行事◆

・四月二日（土）

春季永代経法要

午後二時～

正信偈

西光寺本堂

※感染対策のため、**お勤めのみ**と致します。

※ご法話はありません。

※お身体にご不安な方はご遠慮ください。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>